

主体的に学習に取り組む態度を評価する単元構想（商業科「原価計算」）  
 単元名：2年生 第5編 第1章「標準原価計算の目的と手続き」（全4時間）

単元の目標（育成を目指す資質・能力）
(1) 標準原価計算について理論と実務とを関連付けて理解するとともに、関連する技術を身に付ける。 (2) 標準原価計算の方法の妥当性と実務における課題を見だし、科学的な根拠に基づいて課題に対応する。 (3) 標準原価計算について自ら学び、適正な標準原価計算による適切な原価情報の提供と効果的な活用主体的かつ協働的に取り組む。

単元の評価規準
知識・技術 ・標準原価計算について理論と実務とを関連付けて理解するとともに、関連する技術を身に付けている。
思考力・判断力・表現力 ・標準原価計算の方法の妥当性と実務における課題を見だし、科学的な根拠に基づいて課題に対応している。
主体的に学習に取り組む態度 ・標準原価計算について自ら学び、適正な標準原価計算による適切な原価情報の提供と効果的な活用主体的かつ協働的に取り組もうとしている。

既習内容	生徒の実態と抱える課題
(2年1学期) ・原価計算の目的 ・材料費、労務費、経費 ・個別原価計算 ・総合原価計算 (2年2学期) ・実際原価計算 ・仕損じ、副産物	(実態) 努力はできるが「科学的、統計的」な考え方自体を理解できず、知識を覚えることに終始してしまっている。注意していても問題文を見落としてしまう生徒がいる。 (課題) 問題演習では覚えた知識から勘で解答することもある。説明に時間をかけることで理解を深める手だてを実施する。あわせて、理解に時間のかかる生徒にも対策が必要である。

主体的に学習に取り組む態度を評価する単元構想（研究仮説と手だて）
<p>本単元では、標準原価計算の目的を理解し手続きの概要を把握することと、大まかな差異分析を行い原価管理の重要性に気付かせることで、無駄の発生要因を考えられるようになって考えた。事例を通じてグループワークを行うことで無駄の発生要因を洗い出し、他グループの発表を通じて事例を多角的に捉え、日常生活においても効率的な時間の使い方や消費活動を心がけるようになって考えた。</p> <p>また、原価標準の設定において標準原価カードの各項目の算出根拠となる「科学的・統計的」とはどのような手法であるかを考えて実践させ、実際に標準原価カードを作成させる。効率的な作業時間や作業量、価格を科学的・統計的根拠をもって測定することを体験することで、行動や作業を金額や数値に対応させる技術を定着させたい。原価標準が問題を解くための数値ではないこと、実務で必要な正確さの追求について粘り強く取り組ませていきたい。</p> <p><b>【主体的な学び】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・説明を聞く中で、理解した内容を正しく解釈し自分の言葉で表現しようと取り組ませる（第1時）。</li> <li>・「科学的・統計的」について説明を受けた後、どのような手法で統計データを算出するか考えさせる（第2時）。</li> <li>・標準原価カード作成の過程で、積極的に統計データを作成し算出根拠に基づき処理させる（第2・3時）。</li> <li>・資料を読み込み標準原価と実際原価の比較から、無駄の発生要因について見いださせる（第4時）。</li> </ul> <p><b>【対話的な学び】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・標準原価計算の目的について、より平易な表現に書き換える課題を与え、ペア学習で表現についてその表現を考えた理由を説明させる（第1時）。</li> <li>・調査したデータを教員に報告する際に、指摘を受けた部分についてもう一度グループの中で検討し正しいデータとなるように努力させる（第2・3時）。</li> <li>・無駄の発生要因を考えるグループワークで、他者の意見を聞きプリントにまとめ自分の意見を正しく伝えさせる（第4時）。</li> </ul> <p><b>【深い学び】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・標準原価カードの作成において、タブレットを用いた調べ学習などを用いて一般的な価格を調べ、製品1単位あたりの標準単価や標準賃率を計算できるようにさせる（第2・3時）。</li> <li>・標準原価カードに直接経費についての記述がない理由について疑問をもち、インターネットで調べることや教員に質問するなどによって解決できるようにさせる（第4時）。</li> </ul>

単元評価計画						
時数	小単元の目標	評価方法	学習活動	主体的に学習に取り組む態度を評価する工夫	評価における工夫(評価の還元)	割合
1	<ul style="list-style-type: none"> <li>原価管理と標準原価計算の意味と目的の理解</li> <li>標準原価計算の手続きの理解</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①ペアワーク</li> <li>②プリント</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>標準原価計算の説明を聞き、意味と目的をまとめる。</li> <li>手続きについて説明を聞き、図解でまとめる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>㊦ 目的を平易な言葉に置き換えさせ、プリントに、その理由を説明させる。</li> <li>㊧ 図解によって表現の形式を、自分の理解を整理し、表現させる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>プリントの評価欄を使用し、相互評価を行う。(単元後)</li> <li>完成したプリントを比較させ修正させる。(次時返却)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①3</li> <li>②3</li> </ul>
2 3	<ul style="list-style-type: none"> <li>標準原価の設定</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①プリント</li> <li>②グループワーク</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>標準原価カードの構成を学び、原価標準の算出方法を理解する。</li> <li>設定された課題について標準原価カードを作成する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>㊧ 標準消費数量や標準直接作業時間の科学的・統計的な調査方法を自分の表現でまとめさせる。</li> <li>㊧ 課題の説明によって臨場感を与える。コストを下げることの重要性を説き積極的に課題に取り組むよう指導する。</li> <li>㊦ グループ内での対話、教員との対話を重視する。根拠となるデータを報告、意見を求めさせる。</li> <li>㊧ 教員は繰り返し試問し、科学的、統計的なデータとなるように助言する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒自身が考えた改善点をまとめる欄を準備しておく。(単元後返却)</li> <li>時間計測表など、まとめやすいプリントを作り利用活用させる。(次時返却)</li> <li>項目ごとに、教員に報告させフィードバックを与える。(授業中)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①3</li> <li>②5</li> <li>①3</li> </ul>
4	<ul style="list-style-type: none"> <li>標準原価の計算と実際原価の比較</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①プリント</li> <li>②グループワーク</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>完成品の標準原価と月末の標準原価の計算方法について説明を聞く。</li> <li>標準原価と実際原価に差異が発生する事例を複数取り上げ、無駄の発生原因を整理し対策を考える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>㊧ 説明内容を自分の言葉でまとめさせる。</li> <li>㊧ 直接経費について標準原価計算で省略される理由に疑問がもてるように説明を展開する。</li> <li>㊦ ロイロノートを紹介して直接メッセージを交換させグループそれぞれの傾向をまとめさせる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>自分なりの解釈をまとめ、授業での説明に付け足して記述してある。(次時返却)</li> <li>質問を記入できる欄を設ける。(次時返却)</li> <li>無駄遣い、時間の浪費、自分自身では対策できない無駄に区分し、整理されているかを確認し教員の見解を記述。(次時返却)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①3</li> <li>①5</li> <li>②5</li> </ul>
		①定期考査				①70